

## 北海道枝幸町東歌登のパンケナイトンネル内で モモジロコウモリが食べ残したと思われるガ

村山良子<sup>1)</sup>・前田喜四雄<sup>2)</sup>・佐藤雅彦<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 098-5821 北海道枝幸郡枝幸町栄町 154 日本野鳥の会道北支部会員

<sup>2)</sup> 〒 630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学附属自然環境教育センター

<sup>3)</sup> 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

### Moths Seemed to be Left Over by *Myotis macrodactylus* in Pankenai Cave at Higashi-Utanobori, Esashi-Cho, Hokkaido

Yoshiko MURAYAMA<sup>1)</sup>, Kishio MAEDA<sup>2)</sup> and Masahiko SATO<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>A member of Do-hoku branch of Wild Bird Society of Japan, 154 Sakae-machi, Esashi, Hokkaido, 098-5821 Japan

<sup>2)</sup>Education center fro Natural Environment, Nara University of Education, Takabatake-cho, Nara-shi, 630-8528 Japan

<sup>3)</sup>Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

**Abstract.** Two hundreds and one of moth wing were collected at the 4th of November, 2007 in Pankenai Tunnel of Higashi-Utanobori, Esashi-Town, Hokkaido. These seem to be left over by *Myotis macrodactylus*. These wings included the following identified four species, *Bombyx mandarina* (Moore), *Eutelia geyeri* (Felder & Rogenhofer), *Catocala electa* (Borkhausen) and *Scoliopteryx libatarix* (Linnaeus). These wings correspond to one moth of the first species, 25 of the second, three of the third and 27 of the latter each.

北海道枝幸郡枝幸町東歌登に使用されていない古いトンネルがあり、そこを主に多数のモモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* が利用することが知られている (佐藤ほか, 2004)。このトンネルでは春から秋にかけての雌雄による利用があるが、繁殖や越冬が確認されたことはない (佐藤ほか, 2004)。

このトンネルに2007年11月4日に入洞した時に、モモジロコウモリが2頭壁面に懸架しており、その付近の地面に多数のガ類と思われる翅が散乱していた。他に一部触角と思われる部分も落ちていた。回収したガ類の翅は合計201枚であった。これらはこのトンネルに懸架していたコウモリ、おそらくこの2頭のモモジロコウモリが採餌した時に食べ残した翅と思われる。

洞窟の壁面に止まっている、あるいは飛翔するこれらの翅を持つガ類を他の動物がこのように多く捕食するこ

とができる可能性はきわめて低く、これを食べ残した動物はコウモリと断定して間違いのないであろう。

前述のとおりこのトンネル内における本種の越冬は観察されていない。したがって、例年であれば、この時の2頭は他の個体がすでに越冬場所に移動したのちもまだここに残っていたことになるが、これらがここでこのまま越冬したのか、まもなく越冬場所に移動したのかは確認していない。

コウモリが2頭懸架していた状況、および落ちていた翅と同種のガ類がトンネル内の壁面に止まっていたことなどから、地面に落ちていたこれらの翅はモモジロコウモリによってこのトンネル内で捕食された可能性が高いと思われる。

ただし、これらのガをコウモリがトンネル外で捕獲し、洞内に持ち込んで、翅を懸架場所の下に落としたこと

も考えられなくもないが、翅の量がかなり多いので、ガを1匹ずつトンネル外から捕獲し、トンネル内に持ち帰り、そこで食べたとは考えがたく、やはりトンネル内に冬眠などのため入っているガ類を採食したと考える方が順当であろう。

これら 201 枚の翅を井上ほか (1982) を用いて同定したところ、200 枚については以下の4種のものと同定することができた。未同定となった翅1枚は入洞時に生体を観察できたムラサキミツボシアツバまたはミツボシアツバのものである可能性があったが、回収された翅が左後翅1枚のため同定を保留することとした。

### カイコガ科

クワコ *Bombyx mandarina* (Moore)

前翅左右各1枚、後翅左右各1枚

### ヤガ科

フサヤガ *Eutelia geyeri* (Felder & Rogenhofer)

右前翅 24 枚、左前翅 25 枚、右後翅 18 枚、左後翅 12 枚

ベニシタバ *Catocal electa* (Borkhausen)

前翅左右各3枚、右後翅2、左後翅3枚

ハガタキリバ *Scoliopteryx libatarix* (Linnaeus)

右前翅 27 枚、左前翅 27 枚、右後翅 26 枚、左後翅 26 枚

上記4種のカガ類の翅の前後左右は簡単に識別できるため、翅の前後左右別の数を求め、コウモリによって捕獲されたと考えられる最低限のカガの個体数を推測した。それによると、もつとも個体数が多かったのはハガタキリバの27匹分、次いでフサヤガの25匹分、あとは少なくてベニシタバの3匹分とクワコの翅1匹分の合計56匹分であると算出された。

なお、フサヤガは成虫越冬(江崎ほか, 1991; 飯島, 1990; 井上ほか, 1982; 楠, 1977; 宮田, 1983; 六浦ほか, 1965)とされ、ハガタキリバも成虫越冬(飯島, 1990; 井上ほか, 1982; 楠, 1977;

六浦ほか, 1965) または蛹越冬(宮田, 1983)とされている。北海道の記録としては楠(1977)が札幌市の洞穴において3月30日に両種を確認していることから、今回の観察も秋期遅くから冬期にかけ、越冬のためにトンネル内に多数の個体が集まり、それらがコウモリによって捕食されたと考えてよいだろう。その一方、クワコとベニシタバは成虫越冬ができないこと(宮田, 1983; 楠, 私信)や捕食数が前2種と比べて極端に少ないことなどから、たまたまトンネルに入った時に捕食にあったものと想像された。洞窟内での蛾類の越冬記録については文献記録が少ないとされており(楠, 私信)、本報告が少しでも道北地区の蛾類の生態についても情報を提供するものとなれば幸いである。

最後に本原稿をご校閲いただき、文献記録や貴重な情報をご教示いただいた楠 祐一氏(旭川市)に心からお礼申し上げる。

### 引用文献

- 江崎悌三・一色周知・六浦晃・井上寛・岡垣弘・緒方正美・黒子浩, 1991. 原色日本蛾類図鑑改訂新版. 保育社, 大阪市, pp.304.
- 飯島一雄, 1990. 標茶町の蛾類. 標茶町郷土館報告, (5): 1-94.
- 井上 寛・杉 繁郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛, 1982. 日本産蛾類大図鑑I. 講談社, 東京, pp. 966, II, Plates 392 +pp. 552.
- 楠 祐一, 1977. 3月に洞穴内で得られた3種の蛾について. HORNET, (14): 28.
- 宮田 彬, 1983. 蛾類生体便覧(上下巻). 昭和堂印刷出版事業部, 長崎県諫早市, pp. 1451.
- 六浦 晃・山本義丸・服部伊楚子, 1965. 原色日本蛾類幼虫図鑑(上). 保育社, 大阪市, pp.238.
- 佐藤雅彦・村山良子・前田喜四雄, 2004. 枝幸町および歌登町のトンネルにおけるコウモリの棲息状況. 利尻研究, (23): 25-32.